

2022年10月13日 全16頁

「近畿」「北海道」を筆頭に全地域で改善～物価高による海外の景気後退リスクを注視

2022年10月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

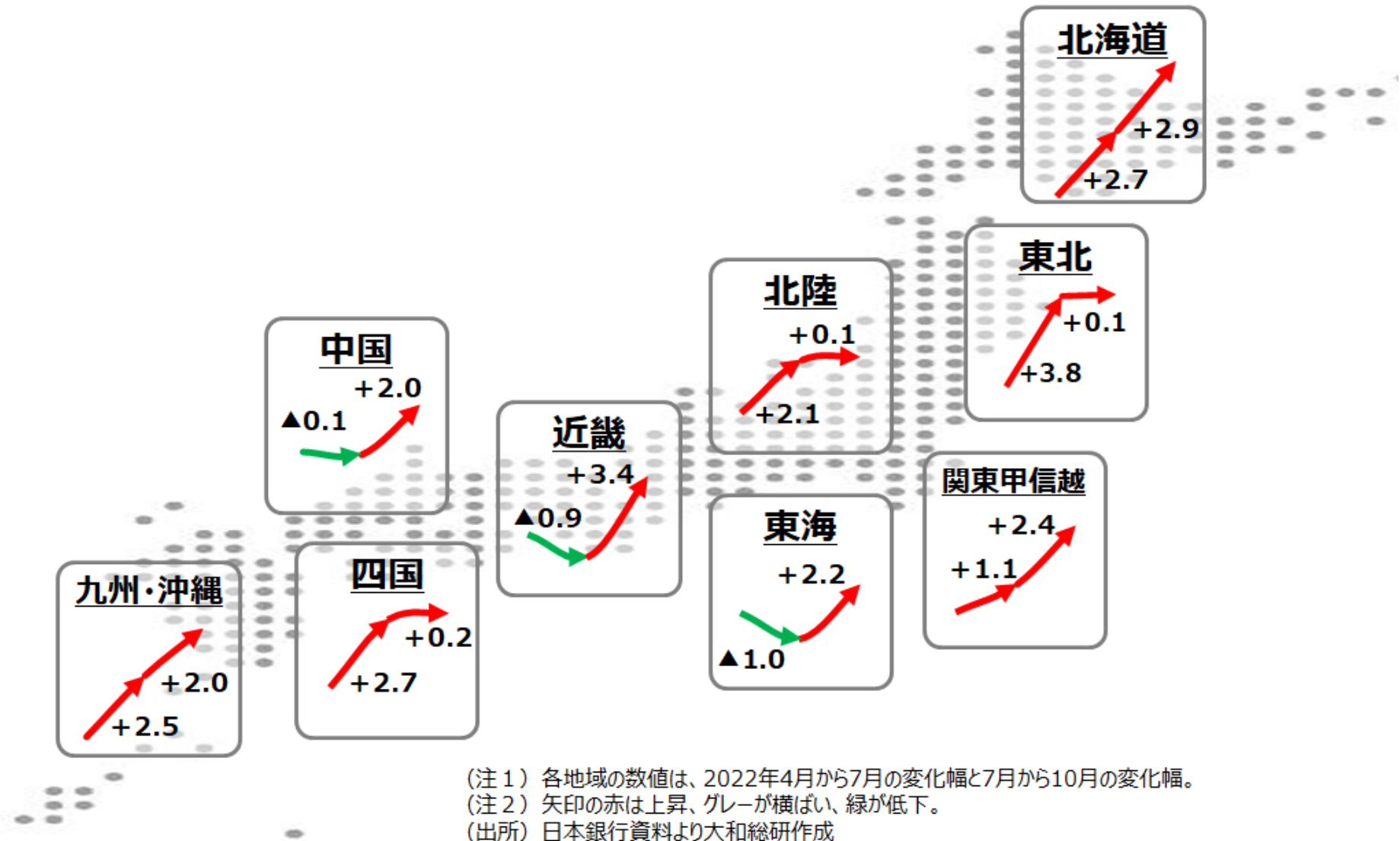
経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
研究員 中田 理恵

[要約]

- 2022年10月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「近畿」「北海道」を筆頭に全地域で改善した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、今夏に新型コロナウイルス新規感染者数が急増したものの行動制限がなかったことで、消費は「中国」「北海道」などで改善した。乗用車販売でも供給制約の影響が弱まって持ち直しの動きが見られる。一方、家電販売の動きが弱く、「近畿」では消費が悪化した。また、資材価格の上昇などで住宅価格が上昇しており、持家・分譲などで動きが鈍いことから、住宅投資は「東北」「東海」で悪化している。そうした中、雇用・所得環境が大幅に改善している地域が多く、特に「東海」「九州・沖縄」「北海道」「近畿」「関東甲信越」などは、雇用・所得環境の改善が大和地域 AI インデックスを大きく押し上げている。先行きの需要回復期待や人手不足・物価高への対応で、ベアなど賃上げを実施する企業が増えているようだ。企業関連では、設備投資の動向は前回から特に変化はなかったものの、上海のロックダウンによる供給制約の影響が緩和されたことで、自動車など輸送機械を中心として生産が「近畿」「関東甲信越」「四国」「九州・沖縄」など、輸出が「近畿」「関東甲信越」で改善した。企業マインドは、製造業について地域で評価が分かれており、各地域の短観を見ると、「中国」「近畿」では輸送機械などで企業マインドが改善する一方、「関東甲信越」「東北」では素材などにおいて悪化している。なお、公共投資の動向は、下げ止まった「四国」を除いて変化はなかった。
- 国内での新規感染者数の急増や供給制約といった懸念材料が剥落してきたこと、足元で雇用・所得環境の改善が見られることから、全国的に景気は改善傾向にある。今後は、家計関連において物価高の影響はあるものの、サービス消費や自動車販売などを中心に消費は緩やかに改善していくと思われる。また、企業関連でもデジタル化・環境対応・省力化に向けた設備投資の改善が期待される。一方、ウクライナ情勢や物価・金利上昇により海外景気が後退して、輸出や生産に悪影響を与える可能性がある。地域経済は引き続き、緩やかな回復基調にはあるが、海外の景気後退リスクを注視していく必要があるだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクスチーム、データ集計作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (22年4月→7月、7月→10月)



ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（22年7月→10月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	+2.9						
東北	+0.1						
北陸	+0.1						
関東甲信越	+2.4						
東海	+2.2						
近畿	+3.4						
中国	+2.0						
四国	+0.2						
九州・沖縄	+2.0						

(注1) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(注2) 中国の生産・輸出ではさくらレポートの文章表現と地域AIモデルの判断結果に今回は乖離が生じている。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

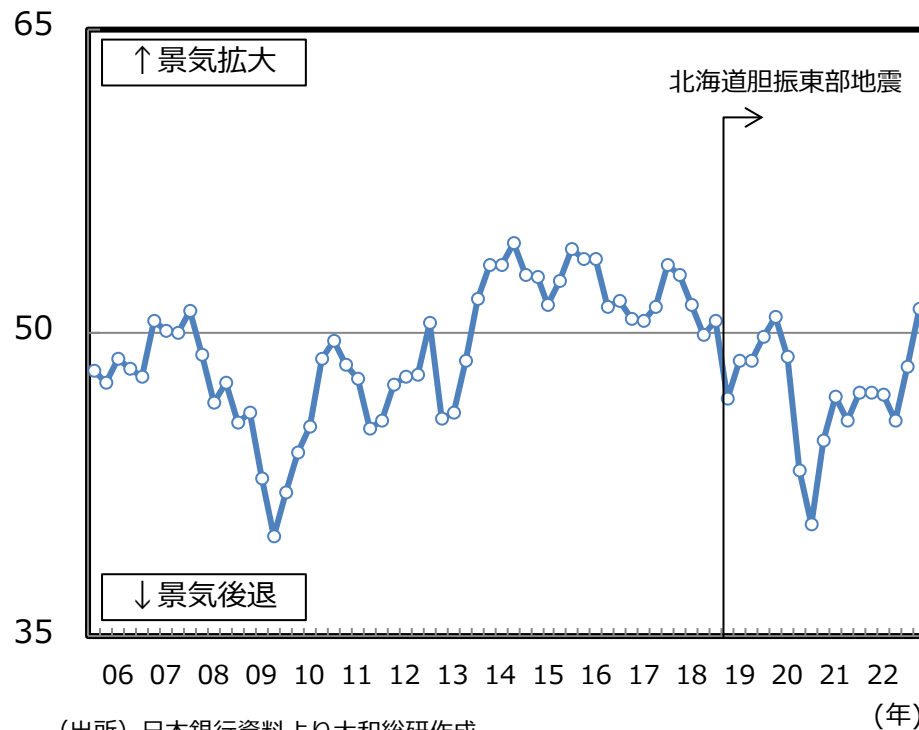
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (22年7月→10月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年7月 : 48.3 →10月 : 51.2)。消費や雇用・所得環境などの改善がインデックスを押し上げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年7月 : 51.4 →10月 : 51.5)。企業マインドや住宅投資が悪化したが、雇用・所得環境や生産の判断が改善しインデックスは微上昇となった。
北陸	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年7月 : 49.1 →10月 : 49.2)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスは微上昇にとどまった。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年7月 : 48.8 →10月 : 51.2)。企業マインドは悪化したが、生産や輸出、雇用・所得環境の改善がインデックスを押し上げた。
東海	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した (22年7月 : 44.8 →10月 : 47.0)。住宅投資等が悪化したものの、雇用・所得環境の力強い改善がインデックス全体を押し上げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに上昇した (22年7月 : 45.7 →10月 : 49.1)。消費が悪化した一方、生産や輸出、企業マインド、雇用・所得環境の改善によりインデックスは上昇した。
中国	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した (22年7月 : 48.6 →10月 : 50.6)。企業マインドや消費、雇用・所得環境の改善によりインデックスは上昇した。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年7月 : 48.8 →10月 : 49.0)。企業マインドが小幅に悪化した一方で、生産の判断が改善しインデックスは小幅に上昇した。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年7月 : 49.3 →10月 : 51.3)。雇用・所得環境の力強い改善や、生産等の改善を受けてインデックスは上昇した。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 7 月：48.3 →10 月：51.2）。
- 消費や雇用・所得環境などの改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は新型コロナウイルスの影響緩和に伴って百貨店、サービス消費で改善の動きが見られた。

大和地域 AI インデックスの推移



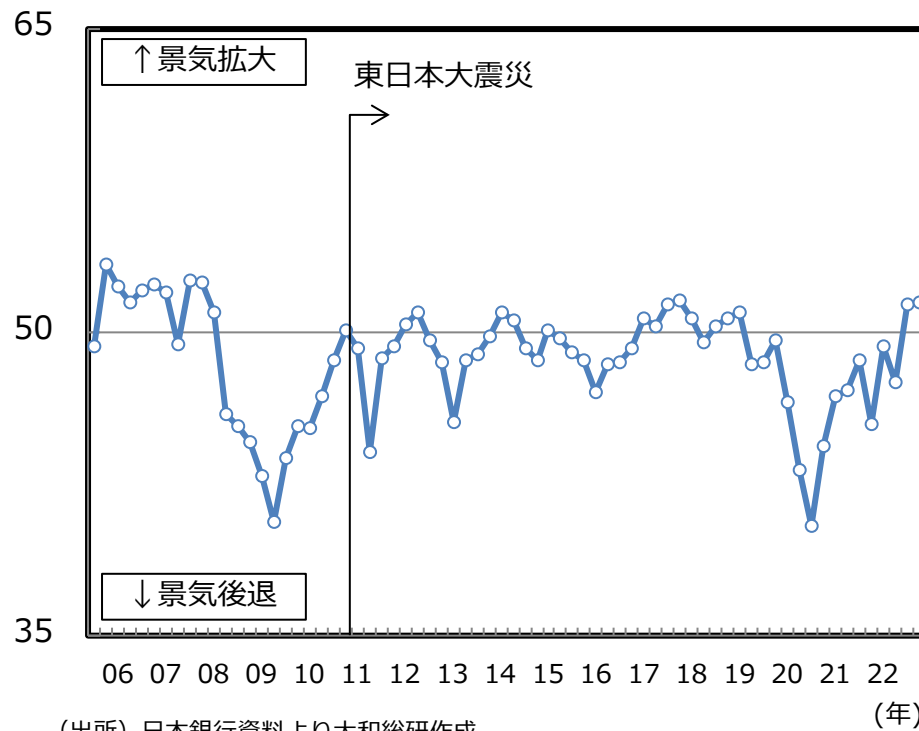
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	→
新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【消費】	↑
新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【雇用・所得】	↑
労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている	一部に弱めの動きがみられるものの、 緩やかに改善しつつある

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 7 月：51.4 →10 月：51.5）。
- 企業マインドや住宅投資が悪化したが、雇用・所得環境や生産の判断が改善しインデックスは微上昇となった。
- 住宅投資のうち持家や分譲の動きが鈍くなっている。一方、雇用・所得については先行きの需要回復期待や人手不足・物価高への対応で、ベアなど賃上げを実施する企業が増えているとみられる。

大和地域 AI インデックスの推移



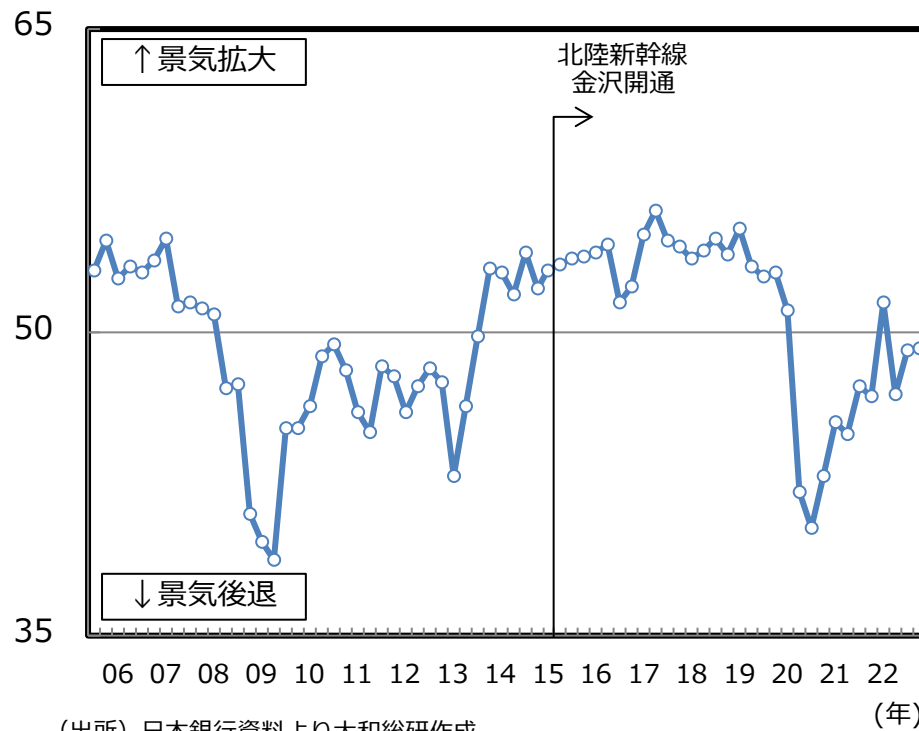
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↓
幾分改善している	横ばいとなっている
【雇用・所得】	↑
改善の動きがみられる	改善している

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 7 月：49.1 →10 月：49.2）。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスは微上昇にとどまった。
- 公共投資は北陸新幹線敦賀延伸工事の一巡により、新規受注が弱めの動きとなっている等の意見が挙げられた。

大和地域 AI インデックスの推移



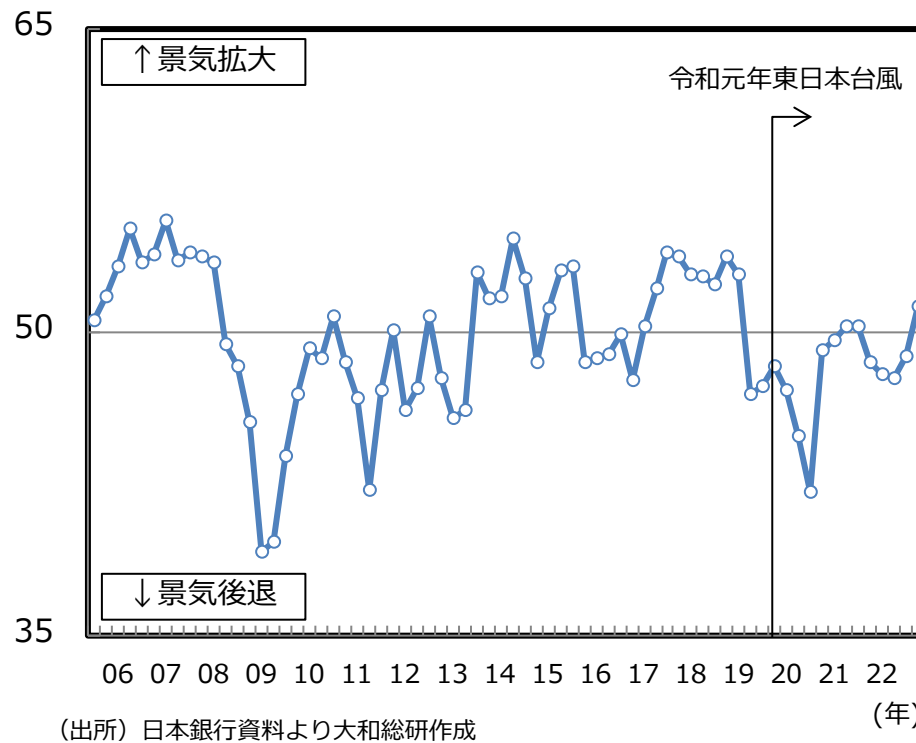
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	→
基調としては持ち直している	基調としては持ち直している
【設備投資】	→
増加している	増加している
【生産】	→
持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 7 月：48.8 →10 月：51.2）。
- 企業マインドは悪化したが、生産や輸出、雇用・所得環境の改善がインデックスを押し上げた。
- 当地域の短観を見ると、素材などで企業マインドが悪化。一方、消費は感染症再拡大の影響も一部見られたが、行動制限が課されなかったこと等から、百貨店や外食・旅行関連など対面型サービスなどで持ち直しの動きが続いている。

大和地域 AI インデックスの推移



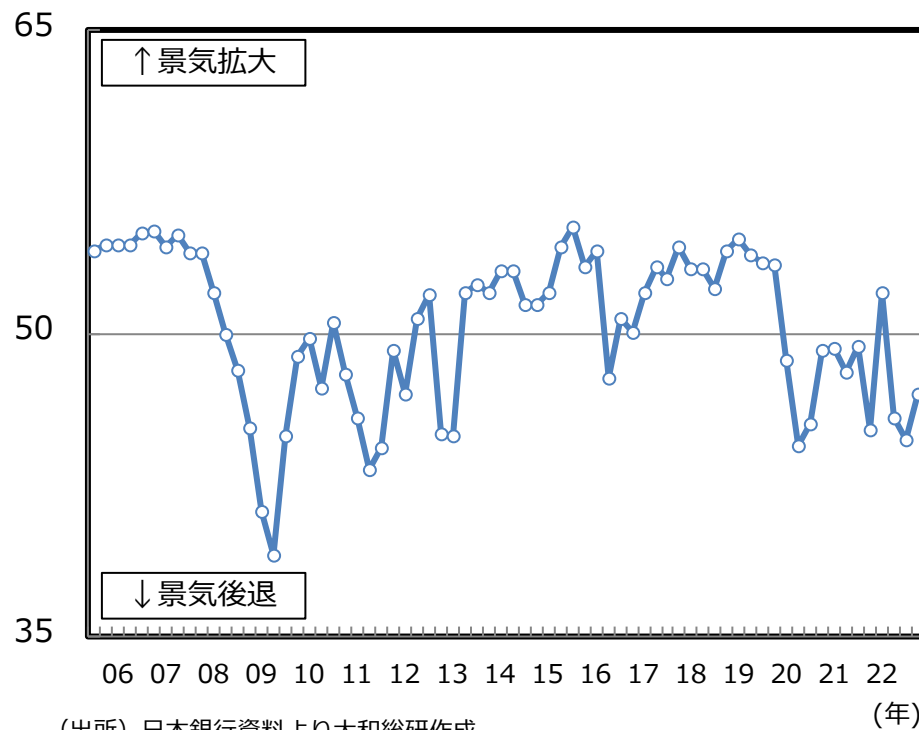
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	→
供給制約の影響が強まっているものの、個人消費への感染症の影響が和らぐもとの、基調としては持ち直している	感染抑制と経済活動の両立が進み、供給制約の影響が和らぐもとの、基調として持ち直している
【企業の業況感】	↓
非製造業を中心に改善している	概ね横ばいとなっている
【生産】	↑
基調としては増加を続けているものの、足もとでは、供給制約の影響が強まっている	供給制約の影響が和らぐもとの、基調として増加を続けている

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した（22 年 7 月：44.8 →10 月：47.0）。
- 住宅投資等が悪化したものの、雇用・所得環境の力強い改善がインデックス全体を押し上げた。
- 住宅投資の悪化は、資材価格の上昇などで住宅価格が上昇したことが要因として挙げられる。

大和地域 AI インデックスの推移



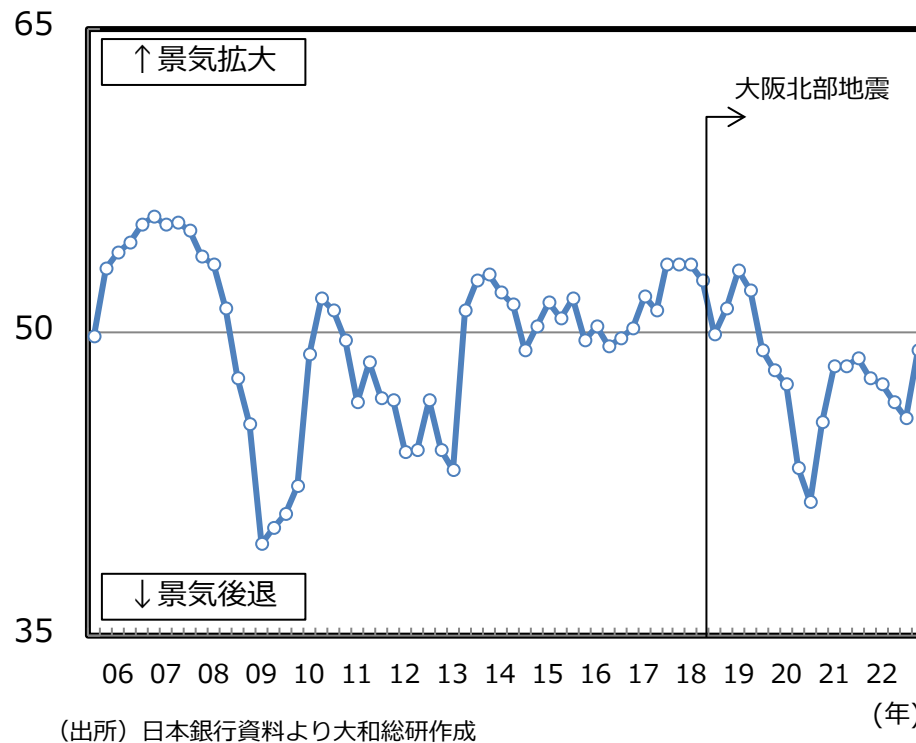
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	→
持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
【住宅投資】	↓
横ばい圏内となっている	弱い動きとなっている
【雇用・所得】	↑
弱い動きがみられている	緩やかに改善している

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに上昇した（22 年 7 月：45.7 →10 月：49.1）。
- 消費が悪化した一方、生産や輸出、企業マインド、雇用・所得環境の改善によりインデックスは上昇した。
- 中国のロックダウンの影響が緩和されて、輸送機械関連の生産などが改善。消費は乗用車販売で供給制約の影響が弱まり持ち直しの動きが見られるが、家電販売では供給制約等により家電製品の仕入れが滞ったことなどで弱い動き。

大和地域 AI インデックスの推移



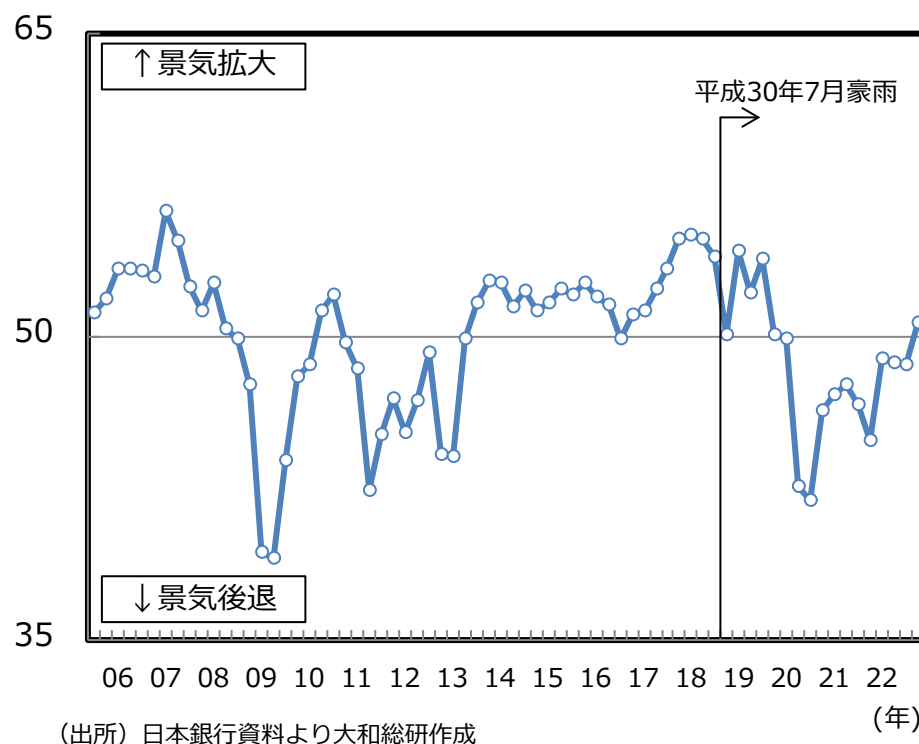
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	→
中国におけるロックダウン等の影響が残るものの、消費への感染症の影響が和らぐもとので、全体として持ち直している	感染症の影響が和らぐもとので、全体として持ち直している
【消費】	↓
感染症の影響が和らぐもとので、持ち直しが明確化している	感染症の影響が和らぐもとので、持ち直している
【生産】	↑
基調としては緩やかな増加を続けているものの、中国のロックダウン等の影響が残存している	基調としては緩やかな増加を続けているものの、一部に弱めの動きがみられている

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した（22 年 7 月：48.6 →10 月：50.6）。
- 企業マインドや消費、雇用・所得環境の改善によりインデックスは上昇した。
- 自動車における供給制約の影響が和らいだことにより、消費や企業マインドといった幅広い分野で改善が見られた。なお、生産・輸出についてはさくらレポートの表記内容と地域 AI の判断で乖離が生じており、方向感が反対となっている。

大和地域 AI インデックスの推移



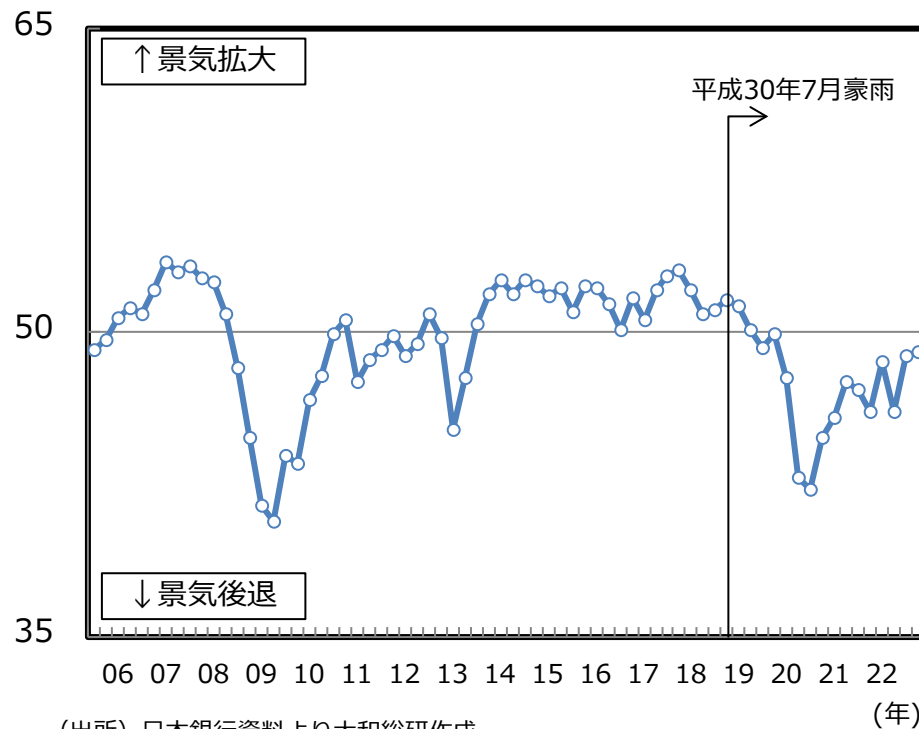
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	↑
下押し圧力は残るものの、 緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【雇用・所得環境】	↑
一部に改善の動きがみられる ものの、全体としてはなお 弱い動きが続いている	一部に弱い動きがみられるものの、 全体としては緩やかに改善している
【企業の業況感】	↑
横ばいとなっている	小幅に改善している

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 7 月：48.8 →10 月：49.0）。
- 企業マインドが小幅に悪化した一方で、生産の判断が改善しインデックスは小幅に上昇した。
- 生産は汎用・生産用機械、輸送機械で改善した。公共投資は西日本豪雨関連の復旧工事が一巡していたが、足元で高速道路関連工事の発注が増加しているとの意見が挙げられている。

大和地域 AI インデックスの推移



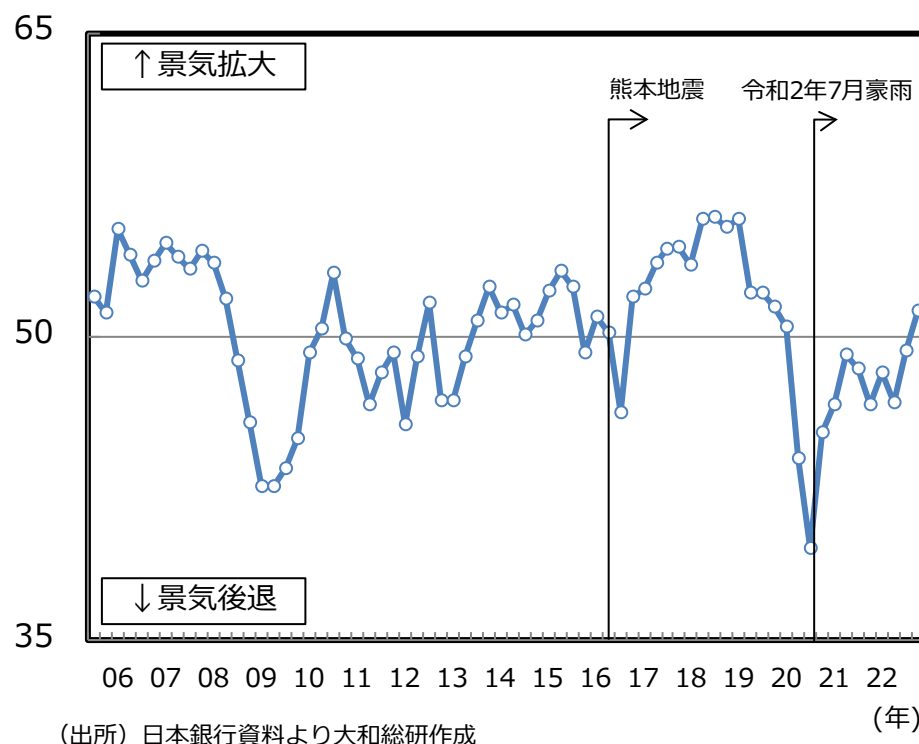
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	→
一部に供給制約の影響がみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している	一部に供給制約の影響がなお残る中、全体としては緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↓
改善している	幾分改善している
【生産】	↑
基調としては持ち直しているものの、このところ供給制約の影響が強まっている	供給制約の影響が和らぎつつあるもとで、基調としては持ち直している

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 7 月：49.3 →10 月：51.3）。
- 雇用・所得環境の力強い改善や、生産等の改善を受けてインデックスは上昇した。
- 生産は自動車で徐々に持ち直しつつあり、改善方向にある。また、観光需要の回復による人手不足の強まりや半導体といった分野での好調な需要の高まりなどを受けて、賃上げなど求人条件の改善に動く企業が増えている。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 7 月	22 年 10 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【雇用・所得】	↑
労働需給、雇用者所得ともに弱い動きとなっている	一部に弱い動きがみられるが、全体としては緩やかに改善している
【生産：自動車】	↑
部品の供給制約の影響により、弱めの動きとなっている	徐々に持ち直しつつある

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2022年10月6日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

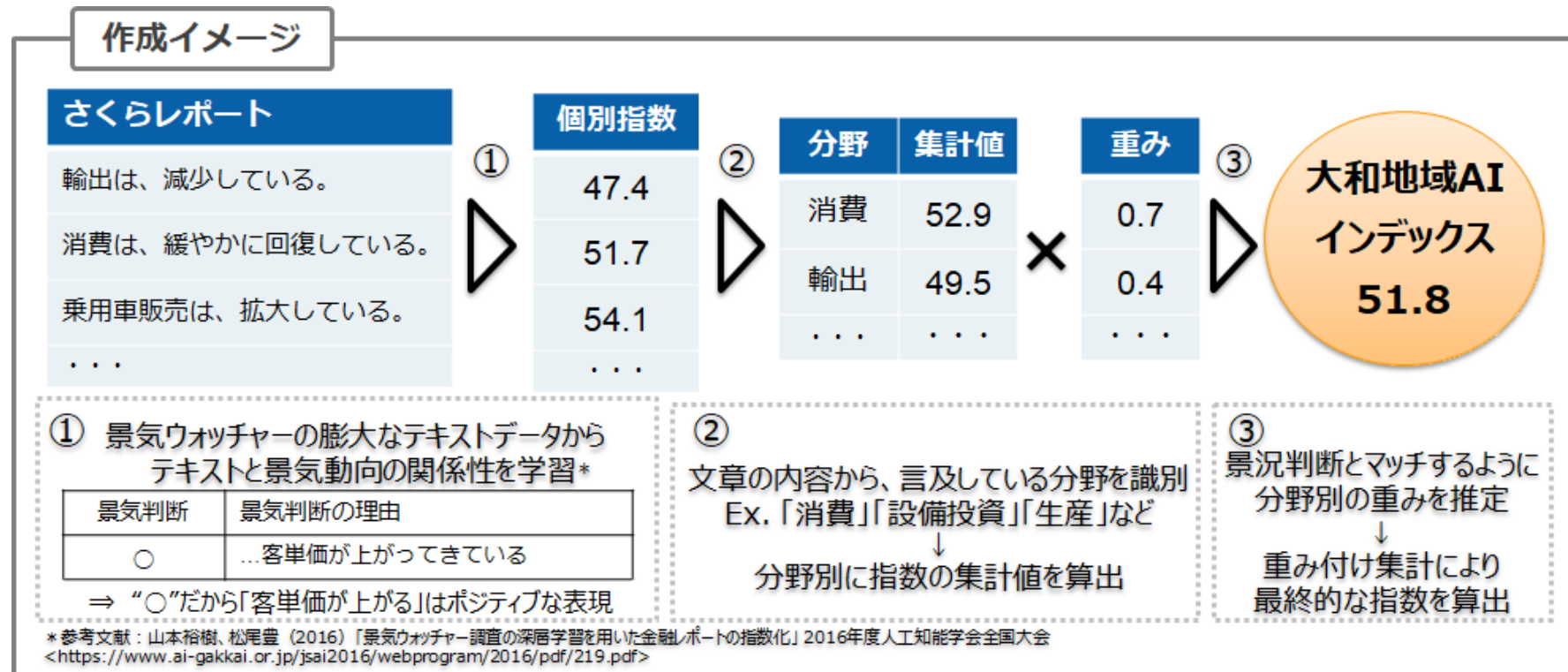
※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？
 - **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**
 - ※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。
- 具体的な作成手法は？
 - 日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。
 - AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習。**



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成